

令和元年度 【 学園研究費助成金< B > 】 研究成果報告書

学部名 教育学部

フリガナ ヤマナカ アヤ
氏名 山 中 文

研究期間 令和元年度

研究課題名 幼児期の音楽表現活動に対する教師の音楽観に関する研究

研究組織

	氏 名	学 部	職 位
研究代表者	山 中 文	教育学部	教授
研究分担者	小 林 奈 美	附属幼稚園	教頭
研究分担者	川 口 萌 文	附属幼稚園	教員
研究分担者	松 本 佳 奈	附属幼稚園	教員
研究分担者	松 原 香 菜 子	附属幼稚園	教員

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

幼児教育現場における音楽表現活動では、未だにピアノ等の伴奏を中心とした一斉指導などが多い。幼児期は遊びを中心とした主体的な学びがめざされているにもかかわらず、音楽表現教育においては逆の方向性を持つ状況をよしとするような教師の音楽観は根強い。

平成 29 年改訂幼稚園教育要領において「表現」領域には幼児期の音楽表現の特性が加筆された。これは、幼児の音楽表現が大人の音楽観とは異なる視点を持つ必要性を示している。

本研究では、これらを踏まえ、乳幼児期の音楽表現の学びの方向性を見通す観点からカリキュラムを見直すことを目指して、幼児期の音楽表現活動に対する教師の音楽観の枠組みを調査し、現状と課題を明らかにする

2. 研究の推進方策 (300字程度で記述)

第 1 に、椛山女学園大学附属幼稚園をフィールドとし、幼児教育現場の音楽表現活動の実際とそれらにおける教師の音楽観を調査する。

第 2 に、音楽表現活動について場面収集と記録を行い、カンファレンスを持つ。また、優れた音楽表現活動が行われている幼稚園を視察する。

第 3 に、幼児の、音楽様式や音楽要素に対する認知の過程や、遊びの中で創造的に表現にかかわっていくプロセスを検討する。

第 4 に、第 2・第 3 を踏まえて、幼児期の音楽表現を新たな視点からとらえ、表現カリキュラムを見直す。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

本研究では、まず椙山女学園大学附属幼稚園の現カリキュラムおよび日常の保育における音楽表現教材の分析から、カリキュラムにおける楽曲重視傾向、教師の楽曲選択における季節・行事の影響、音楽様式や音楽要素に対する認知過程への意識の薄さなどを明らかにし、5月の園内研修において全担任で検討した。そして、新カリキュラム案をもとに全学年で場面収集と記録を行い、7月にはその発表を行うとともに、山中が「幼小連携を踏まえた音楽教育-表現(音楽)の年間指導計画を見直す-」というタイトルで園内講話を行い、音楽様式や音楽要素に対する園児の認知の過程や創造的表現の見方について方向性を確認した。その結果、保育において、教師の視点が音や音楽要素に対する園児の気づきに向き、音楽要素を意識した遊びの展開を工夫したり、音楽様式等を意識したりすることが増え、場面収集と記録に変化が見られた。

12月には、幼児の主体的な表現の育成について定評のある「世田谷仁慈保育園」(東京都)を各学年から3名の教員が見学し、園内に持ち帰るとともに実践に取り入れることができた。また、2学期末の園内研修を行った。3学期には表現発表の場である「すぎのこいきいき DAY」が開催されたが、その過程ではそれまでの園内研修等を各学年で活かすことができ、園児の日常の遊びから発表が創り出され、その発表内容がその後の日常の遊びの中でも展開されるというように、保育の中で音楽表現が豊かに紡がれることとなった。

2月には、各学年が、各教員の収集事例をもとに学年の成果と課題をまとめることができた。

成果として、教師が、園児らの音の高低、音色、速さ、拍、調性、フレーズ感に対する気づきに注目することができたこと、音楽教材や活動に音楽的視点を持つことができたこと、現カリキュラムにおける課題(音素材や音楽要素に対する記述の少なさ)を明らかにすることができたことがあげられる。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

① 音	② 音楽要素	③ 音楽様式	④ 音楽表現活動
⑤ カリキュラム	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

本年度は現行カリキュラムや教師の音楽観の検討から、その視点の転換を図り実践の見直しを行っていくことを中心として行い、多くの場面収集と記録を得、各学年でその成果と課題をまとめることができた。これをもとに、2020年度には、音楽表現活動のカリキュラムを修正して実行するとともに、椙山女学園大学教育学部紀要に発表する予定である。